

霊長類骨格標本：マカクを中心に約30体分の資料を収集した。大部分は所内で死亡したものの再利用の形で作成されたものであるが、1部、現地へおもむいて収集した野生ニホンザル骨格も含まれている。

4. 研究活動

形態基礎研究部門

近藤四郎・岩本光雄
渡辺 毅・真家和生

研究概要

1) 霊長類の姿勢およびロコモーションの比較生機構学的研究

近藤四郎・真家和生

前年までに引きつづき、機構形態学的観点から現生霊長類の locomotor adaptation を明らかにする目的で、実験的研究を進めた。すなわち、2種のテナガザル各1頭を用い、歩行台上二足歩行時の映画記録と平行して、下肢筋の筋活動を記録した。データを関節運動・歩調・歩幅・筋活動の諸関係から分析し、従来行ったクモザルやチンパンジーなどについての結果との比較考察に入っている。なお、本研究は、岡田守彦（筑波大・体育科学系）、山崎信寿（慶応大・工）らとの共同研究として進めており（前年度までの年報を参照）、1978年度に、床反力に関する計測等のデータに加えてまとめを行う予定である。

2) 旧世界ザル、特にマカクに関する形質人類学的研究

岩本光雄

主として野生ニホンザルに関して研究を進め、乳歯期にニホンザルの発育に関するデータ（歯式と生体計測の結果）のとりまとめを行ったほか、秋吉台出土のニホンザル古骨、ならびにニホンザルの皮膚隆線系に関する研究を進めた（継続）。

3) 霊長類の成長に関する研究

渡辺 毅

生体計測にもとづくニホンザルの成長パターンを明らかにする研究の一環として、高崎山において野外調査を行なった。主として若令個体を中心に約70例の資料を得、目下、分析・整理を行ないつつある。

4) エチオピア国における現生ならびに化石霊長類に関する研究

岩本光雄

継続研究として現地出張の予定で準備を進めたが、現地政情の悪化から出発直前に調査の実施を断念した。従来の資料によるとりまとめとして、現生ヒヒ等の分布の検討、ならびに調査対象となった野生ヒヒの形態学的特

徴に関する記載を行った。

5) 新世界ザルの系統学的・形態学的研究

渡辺 毅

テナガクモザルに関する頭骨計測と統計的処理を行い、性差と成長の観点から考察を行った。これまでに行ってきた新世界ザルの形態学的研究を性的二型の観点からまとめた。また、11月より3月までコロンビアにおいて第3紀上部中新世地層の発掘調査を行った（系統研究部門瀬戸口烈司氏、独協医大茂原信生氏との共同調査）。

総説

- 1) 近藤四郎 (1977) : 霊長類の進化—特にロコモーションからみて—。臨床科学, 13-10, 1313-1319.
- 2) 近藤四郎編著 (1977) : 日本人の起源と進化。日本人の生活と適応性シリーズ1。社会保険新報社, 東京。
- 3) 岩本光雄 (1977) : 現生霊長類の分類と分布。“人類学講座, 第2巻(霊長類)”, pp. 3-42. 雄山閣, 東京。
- 4) 岩本光雄 (1977) : アウストラロピテクス類。“形質・進化・霊長類” (加藤泰安・他編), pp. 81-97, 中央公論社, 東京。
- 5) 渡辺 毅 (1978) : 霊長類の性的二型。生物科学, 30, 16-23.

論文

- 1) 岡田守彦・石田英史・木村賛・近藤四郎 (1977) : 霊長類のバイベダリズムに関する比較運動学的研究。“第2回姿勢シンポジウム論文集, 人間と技術者”, pp. 283-290.
- 2) Lealem, B. and M. Iwamoto (1977) : The distributional states of cercopithecooid primates in Ethiopia. “エチオピアにおけるヒヒ類の種間関係、とくに種間雑種についての比較研究”, 京大霊長類研究所エチオピア隊編, pp. 5-20.
- 3) 岩本光雄 (1977) : アヌビスヒヒとマントヒヒの形態学的特徴。京大霊長類研究所エチオピア隊編, pp. 67-73.
- 4) 岩本光雄 (1977) : 乳歯期ニホンザルにおける歯列と身体発育の状態について。人類学雑誌, 85, 281-291.

学会発表

- 1) テナガクモザルにおける性差と年令変化

渡辺 毅

第31回日本人類学会日本民族
学会連合大会 (1977)

神経生理研究部門

久保田競・松波謙一
酒井正樹・三上章久

- 1) 下側頭回及び前頭前野の神経生理学的研究